



「鯉のぼり」

皐月の青空に元気に舞う鯉の吹き流し。往年は5月の風物詩でしたが、今では地方の家々に翻っている姿が懐かしくなってきました。起源は遠く中国でしたが、江戸時代、将軍に男子が生まれると旗指物(家紋のついた旗)

や幟(のぼり)をたてて祝いました。やがてこの風習は武家層にも広がり、それが、次第に力を付けてきた町衆も武家の幟に対し、鯉が出世し龍となる「登龍門」の謂れを取り込み、「鯉のぼり」が上げられるようになった。

その鯉のぼりにも自然と役割が決まってきた。黒鯉はお父さん、赤鯉はお母さん、青鯉は子供を表し一家の安泰と子供の健やかな成長を願っている。

一番上に泳ぐのは「青・赤・黄・白・黒」の五色の「吹流し」が邪鬼を祓っています。これは、中国から伝来の「五行説」から先人の知恵として取り入れているようです。

なにはともあれ、このように中国では廃れた風習が、日本に素晴らしい風習として成長してきました。デジタル時代に進化する世相にも存在感のある「鯉のぼり」として頑張っ
て欲しいと願う者の一人です。

母の日



5月の第2日曜日が「母の日」となっています。

昭和年代に誕生した私たちの父母は、戦前戦中戦後の激動の中にも逞しく活動してきたのではとの思いが頭をよぎります。戦前生まれの私には、ロシアのウクライナへの侵略報道が我がことのように思うことが屢々あります。

昭和20年8月、日本の敗戦が決まり、「食」の困窮が始まり、それをいかに乗り越してきたのか、最近ようやく思い出し、今の幸せの基となった方々へ感謝は遅すぎるほどではありますが、父母への感謝も胸に刻まれてきます。

そして、あらためて「母の日」の由来をネットで調べて、皆様は既にご存知と思いますが私は恥ずかしながら初めて知ることとなり、唯々頭が下がることばかりです。

「母の日」が生まれたのは20世紀初頭のアメリカで、1907年アンナ・ジャービス氏が亡くなられた母のために追悼会を開き、「母が生前好きだった白いカーネーションを参列者に配りました」。この出来事は母を敬い感謝する日を作る動きがアメリカ全土に広がるきっかけとなりました。ここからカーネーションを贈ることが始まったようです。

1914年には、アメリカ大統領であるウィルソン大統領が、アンナ氏の母が亡くなった5月第2日曜日を「母の日」として定め、「国民の休日」としました。

まだまだ知らないことの多さを知らせてくれる「令和7年5月」の佳き日でした。